

狩りの思考法

角幡唯介 著

ASAHI ECO BOOKS No. 40

アサヒグループホールディングス 発行
清水弘文堂書房 編集発売

現実には、とても残酷だ。でも
現実には、とっても美しい。

現実世界にたいして私が如何なる認識をもってこれと接しているのか
といえば、それはカオス、渾沌である、ということである。

真の現実——自然といってもいいかもしれない——とは收拾のつかない
無秩序な修羅場である。

漂泊とは流れさすらうこと。目的地を決めるのではなく、今目の前に
生じる事象や出来事、あるいはそこに姿をあらわした他者、動物など
生ける主体に巻きこまれ、その関わりのなかから新しい未来が生じる、
そうした時間の流れに身を置くことである。

最後の部分では神がサイコロをふる。その意味で狩猟というのは偶然
の産物であり、不確実で先の読めないカオス的な真の現実に触れる行
動様式である。

獲物がとれば旅が延長され、そのぶん生きることが許される。狩り
とはその意味で本源的に生が躍動する瞬間だ。〈中略〉今現在に組みこ
まれることで未来がどんどん更新されていくこの存在様態は、まさしく
漂泊そのものというほかなく、狩猟者とは根源的に今現在を生きる
漂泊者たらざるをえないのである。——「計画と漂泊」

事前の〈計画〉を優先して目の前の現実を切り捨ててしまうことは、
イヌイット的にはじつに恥ずべき愚挙なのである。

——「モラルとしてのナルホイヤ」

未来を見つめて、いまを直視できない私たちへ。



本体 1600 円 + 税

ISBN978-4-87950-636-8 C0095

2021 年 10 月 発行

角幡唯介 (かくはた・ゆうすけ)

一九七六（昭和五一）年北海道生まれ。早稲田大学卒業。
同大探検部OB。新聞記者を経て探検家・作家に。

チベット奥地にあるツアンポー峡谷を探検した記録『空白
の五マイル』で開高健ノンフィクション賞、大宅壮一ノンフィ
クション賞などを受賞。その後、北極で全滅した英国フラン
クリン探検隊の足跡を追った『アグルーカの行方』や、行方
不明になった沖縄のマグロ漁船を追った『漂流』など、自身
の冒険旅行と取材調査を融合した作品を発表する。二〇一八
年には、太陽が昇らない北極の極夜を探検した『極夜行』で
ヤフーニュース本屋大賞ノンフィクション本大賞、大佛次郎
賞を受賞し話題となった。翌年、『極夜行』の準備活動をつづ
た『極夜行前』を刊行。二〇一九年一月からグリーンランド
最北の村シオラバルクで犬橇をはじめ、毎年二カ月近くの長
期旅行をおこなっている。

書店（貼合）印

ご担当

1600

ISBN978-4-87950-636-8 C0095 ¥1600E

注文
数

書名

狩りの
思考法

発行所

清水弘
文堂書
房

著者

角幡
唯介

定価：本体 1600 円 + 税